

第1章 豊島区立清和小校の概要

1 学校の概要

- (1) 1950年 創立
2020年 創立70周年（2022年度創立72年目）
- (2) 校名の由来

「清和」とは

- たくさんの雲水（修行僧）が集い、厳しい中にもなごやかに修行している姿
(仏教の教典より)
- 世の中がよく治まり穏やかなこと。 晴れて暖かい春の季節のこと (大辞林より)

(3) 教育目標

- 考えを活かし 挑戦する子
- 深く学び 創造する子
- 認め合い 豊かに成長する子

(4) 学校の規模等

児童数	男子	女子	合計
1年生	36	27	63
2年生	41	29	70
3年生	27	26	53
4年生	32	32	64
5年生	33	42	75
6年生	33	35	68
合計	203	191	394

図1



安心を守る
ISS マスコット
【ハトちゃん】

【児童数の変化について】

児童数は毎年400名前後で、
この数年大きな変動はありません。
現在は、2年生だけ3学級で他の学年は
2学級の13学級です。

学校生活時程	
8:10	登校
8:20	準備
8:25	全校朝会（月） 朝学習（火・金） 読書タイム（木）
8:35	朝の会
8:40	1校時
9:25	準備
9:30	2校時
10:15	中休み
10:35	3校時
11:20	準備
11:25	4校時
12:10	給食
12:55	昼休み
13:30	準備
13:35	5校時
14:20	準備
14:25	6校時
15:10	帰りの会
15:15	下校

図2

安全を守る
ISS マスコット
【せいわん】



2 地域の状況

【交通に関する状況】

交通量が多い道路や、細い道路などが周辺にあり、安全面に気を付けながら登下校する必要があります。



図 3-①



図 3-②



図 3-③



図 3-④

第2章 インターナショナルセーフスクールの取組



図4

第3章 けがの発生状況 等

3-1 体のけが① 年間・1日のけがの発生状況は減少傾向

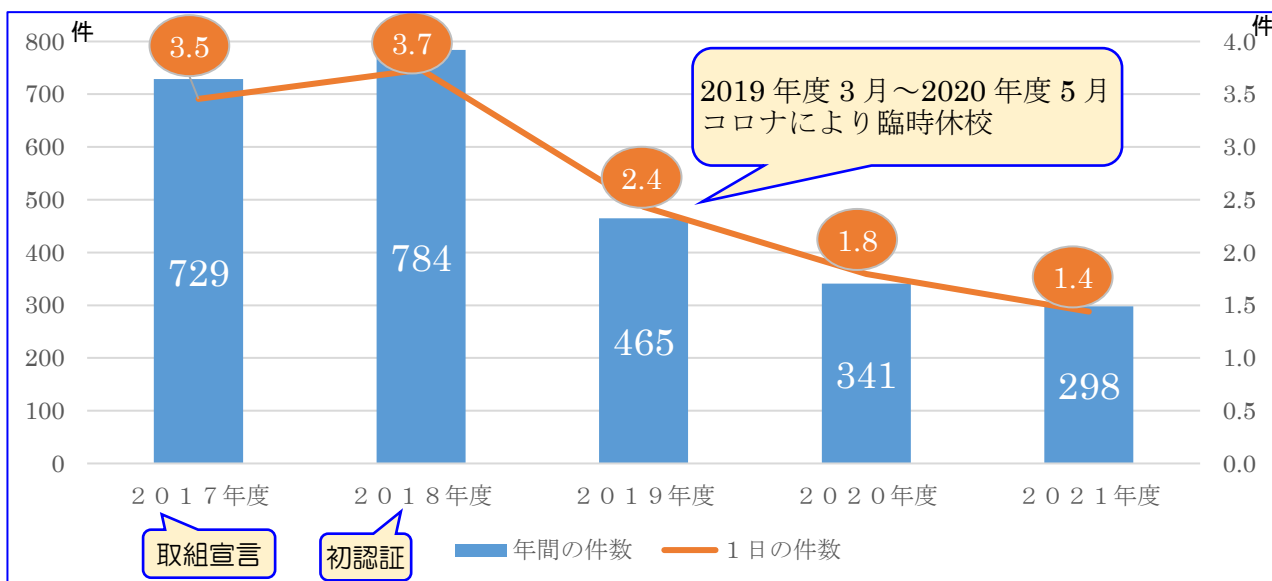


図5 「保健室来室記録」より

2017年11月の「ISS取組宣言」後、けがの発生件数は減少傾向にあります。2019年度・2020年度は臨時休校等がありましたが、1日あたりの件数でも減少傾向を確認することができます。

3-1 体のけが② 休憩時間・体育授業中にけがが多く発生している。

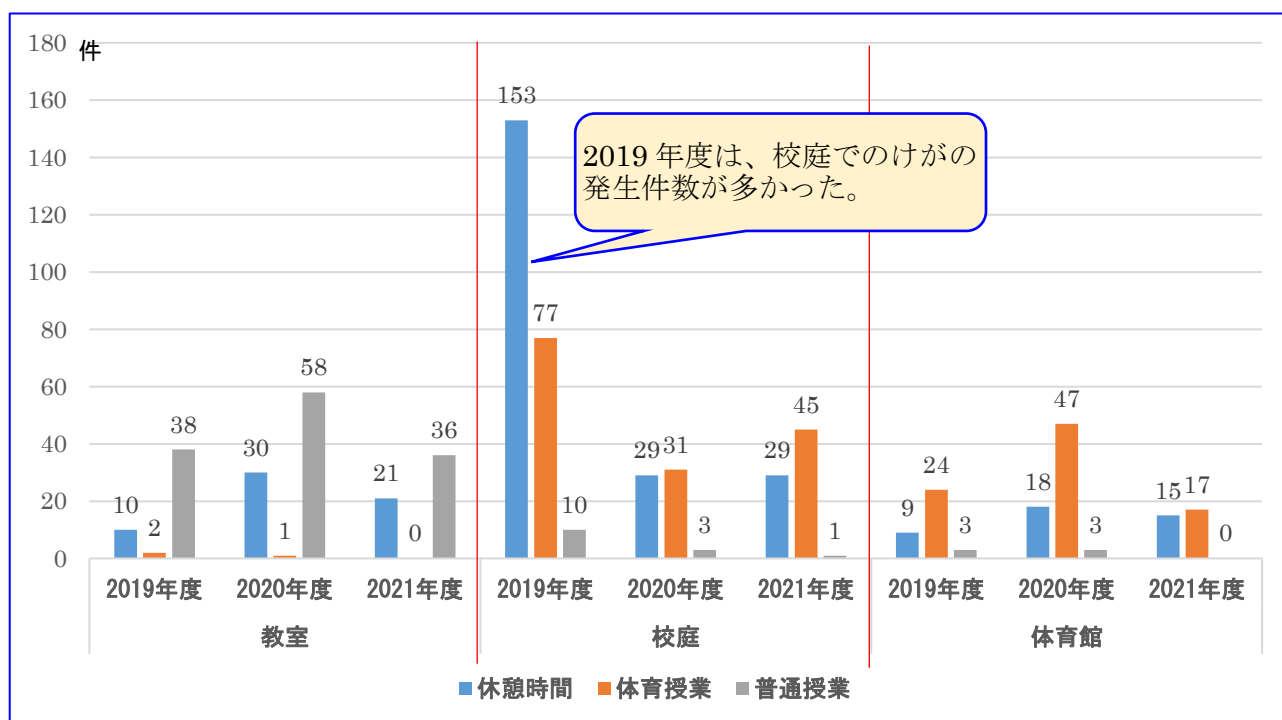


図6 「保健室来室記録」より

3-1 体のけが③ どの学年も転倒や不注意によるけがが多く発生している。

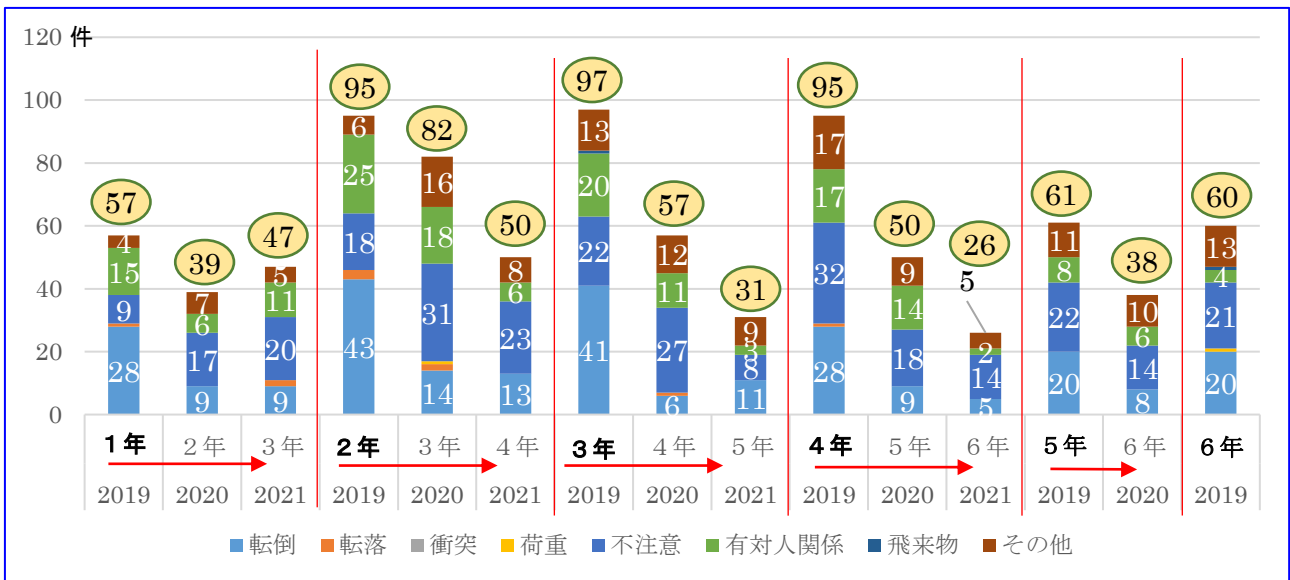


図7 「保健室来室記録」より

どの学年も、学年が上がるに伴ってけがの発生件数が減る傾向があります。けがの原因は転倒や周囲に対する注意不足、カッターなどの道具を扱う際の注意不足などが多いです。

3-1 体のけが④ 環境の変化（コロナ禍・校庭改修）により骨折が多発した。

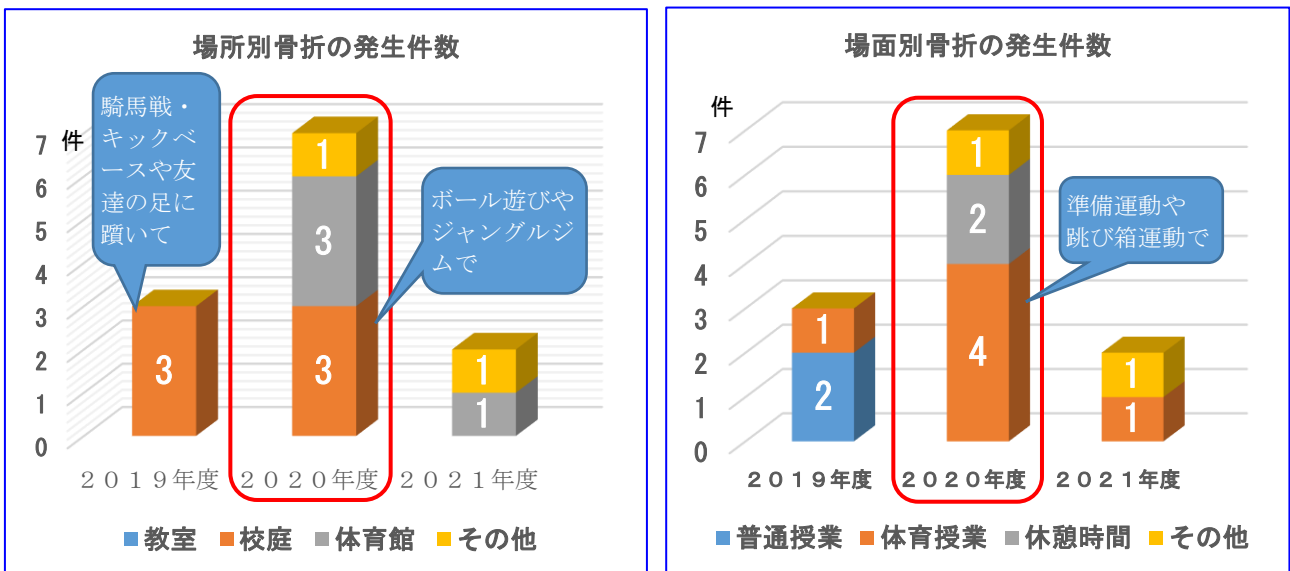


図8 「保健室来室記録」より

2020年度はコロナ禍と校庭改修工事により運動不足となり、運動能力が低下したと推測されます。このことが、骨折が多発した一因と考えます。教員の看護体制の見直し、体育指導法研修の実施や校庭で運動する際の靴を見直すなどの対応を行いました。2021年度は骨折件数を71%減少させることができました。

3-2 ヒヤリハット体験（「ヒヤリハット調査 2022年6月実施」）

1. 登下校中に危ないと感じたことはありますか。

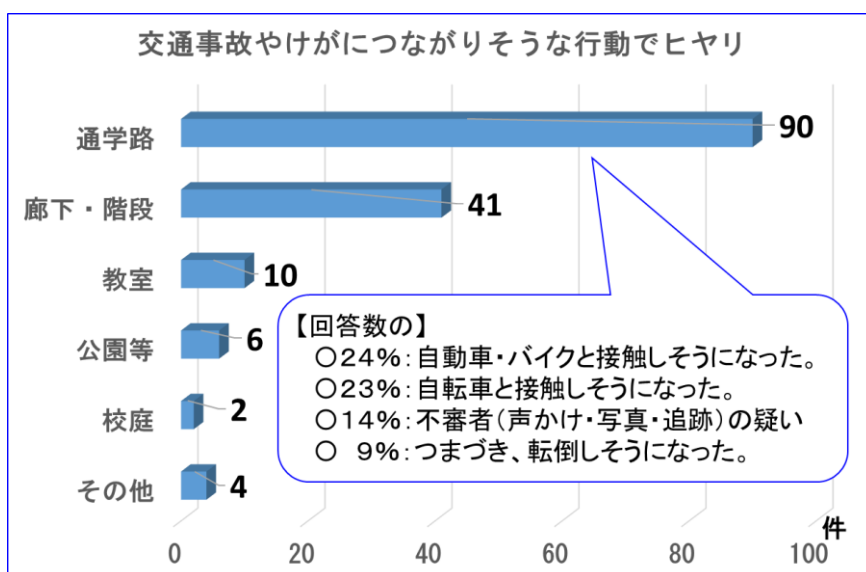
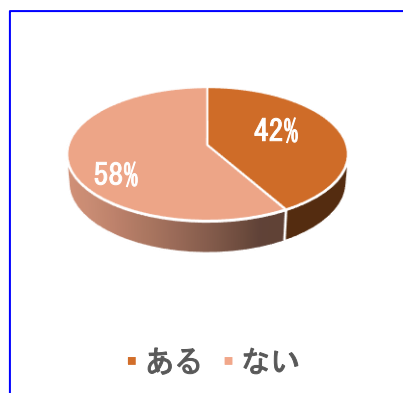


図9 「ヒヤリハットアンケート」より

大きな交通事故につながりかねない接触事故が発生している。

年度	場面	学年	事故の概要
2019年度			なし
2020年度	下校後	5年	坂道を自転車で走行中ブレーキが利かなく、交差する道路を走行中の自動車と接触
	下校中	4年	道路を走っていて、出会い頭に自転車と衝突しそうになる。
2021年度	下校後	6年	自転車で走行中、道路排水溝蓋で滑り転倒

図10 「生活指導部ノート」より

2. 授業中に危ないと感じたことはありますか。

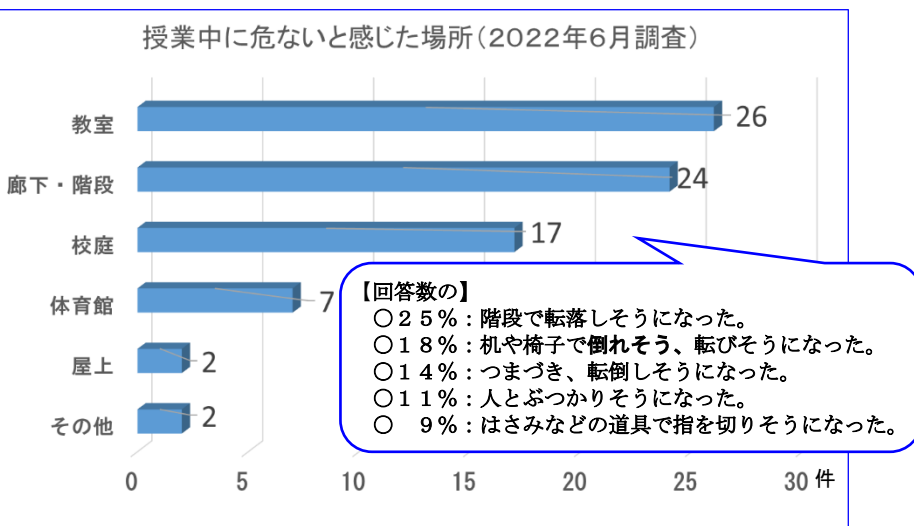
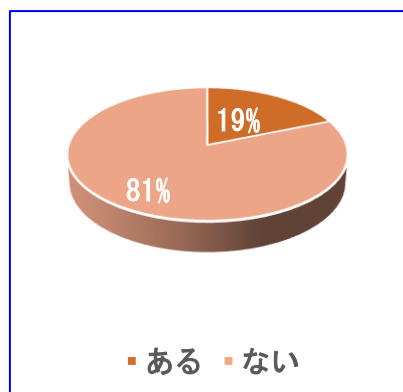


図11 「ヒヤリハットアンケート」より

3. 休み時間中に危ないと感じたことはありますか。

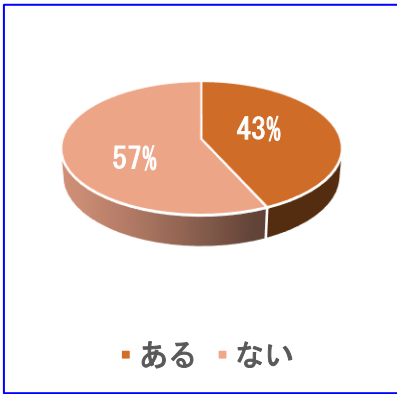
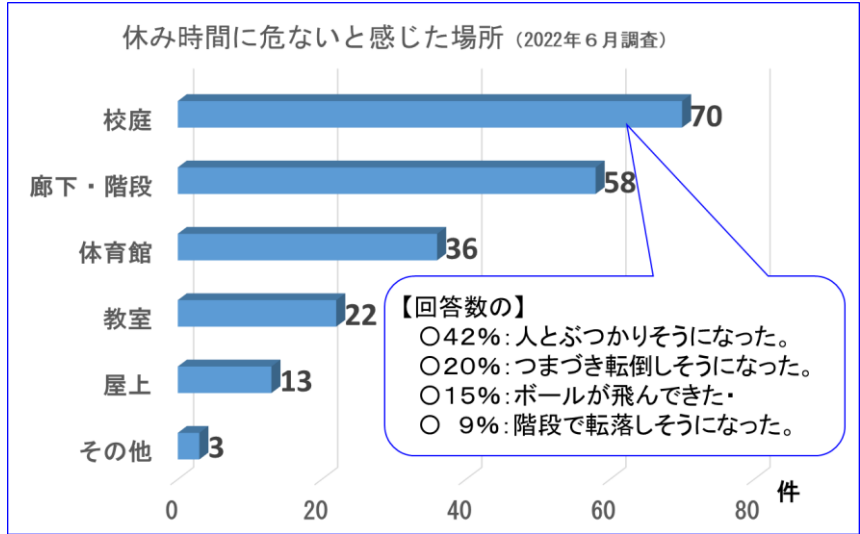


図12 「ヒヤリハットアンケート」より



3-3 心のけが ～いじめの訴え～

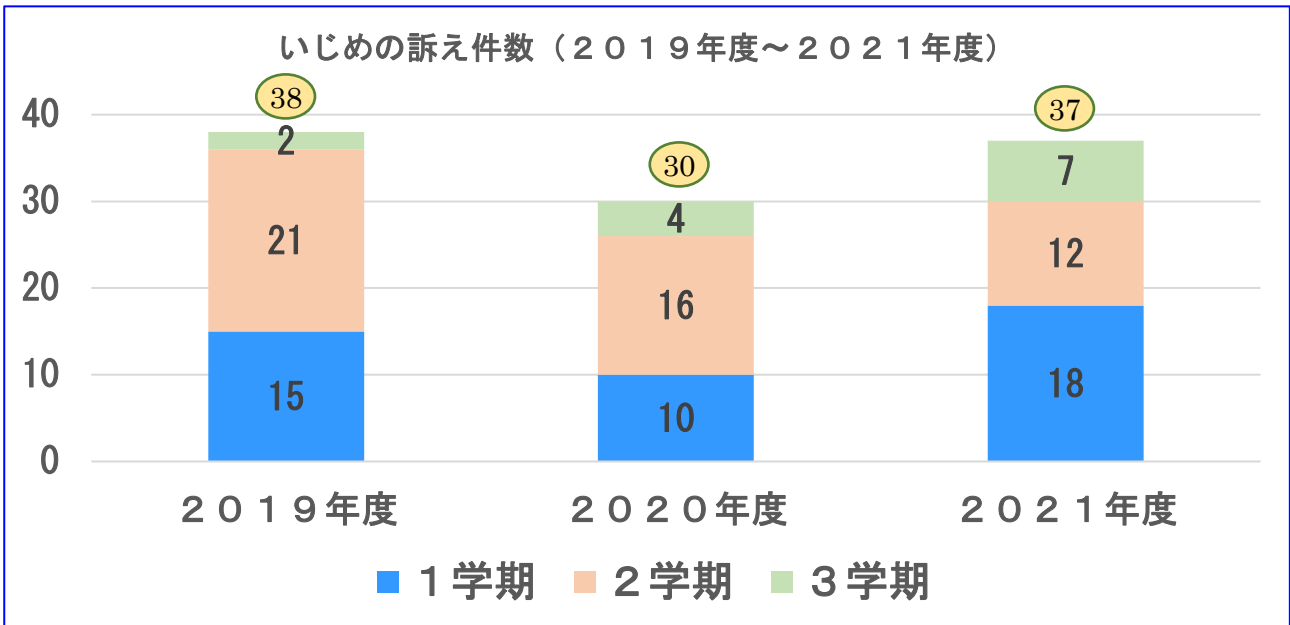


図13 「いじめ実態調査」より

この数年いじめの訴え件数が30件以上と高い数値が続いています。それぞれのトラブルは、互いの話し合いやカウンセリング等、早期の対応で解決しましたが、新たなトラブルが発生する状況です。豊かな人間関係の構築をめざした取組を一層充実させているところです。

4 その他のリスクの状況 4-1 地震

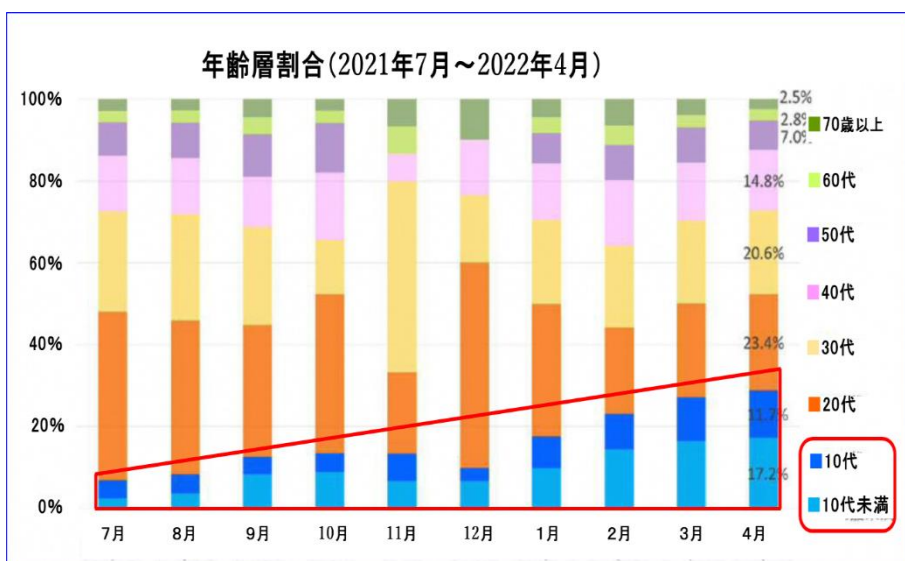
期間	合計		総計
	震度 1~3	震度 4~7	
2011年	171	10	181
2012年	42	4	46
2013年	31	2	33
2014年	21	2	23
2015年	13	4	17
2016年	21	2	23
2017年	18	0	18
2018年	21	1	22
2019年	12	3	15
2020年	23	4	27
2021年	14	4	18
2022年	11	2	13
合計	398	38	436

2011年3月11日の東日本大震災から10年過ぎました。この間、東京で震度4以上を観測した地震は38件もあります。年間3・4件発生しています。震源地では震度5弱以上も多数観測されています。

1995年1月の阪神淡路大震災以降、備蓄品の整備や様々な取組も進められてきていますが、地域での協働体制の充実も大きな課題となっています。避難所となる学校を中心に地域住民と行政・学校、児童・生徒、保護者の協働体制の構築・充実が重要な課題と考えます。

図14 気象庁「地震データベース」より

4 その他のリスクの状況 4-2 新型コロナウイルス感染症



世界規模の新型コロナウイルス感染症の拡大防止が大きな課題となっています。2021年秋ごろより10代以下への感染も広がってきています。学級閉鎖や学年閉鎖も多数行われました。学校での感染拡大防止も大きな課題です。

図15 「豊島区内の新型コロナウイルス感染者数の推移」より

第4章 重点的・優先的に取り組むべき問題点

第3章「けがの発生状況等」の分析により、「身体的側面」と「心的側面」「首都直下型大地震」「新型コロナウイルス感染症」の側面から重点的に取り組むべき問題点を以下のように設定しました。

安全診断のまとめ ①身体的側面

	場所	問題点	根拠となるデータ
体のけが	学校内	①休憩時間の教室でのケガが多い。	図6、図8
		②体育授業中の体育館でのけがが多い。	図6、図8
	校舎外	③休憩時間の校庭でのけがが多い。	図6、図8
		④体育授業中の校庭でのけがが多い。	図6、図8
学校外	通学路	⑤登下校時の交通事故発生の危険性が高い。	図3、図9、 図10
	その他の地域	⑥接触等の事故が毎年1件程度ある。	図10

図16

安全診断のまとめ ②心的側面・その他

	場所	問題点	根拠となるデータ
心のけが	学校内	⑦毎年いじめの訴えがある。	図13
	その他	⑧首都直下型大地震への備え	図14
		⑨新型コロナウイルス感染症の予防	図15

図17

第5章 8つの指標に基づいた取組

指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

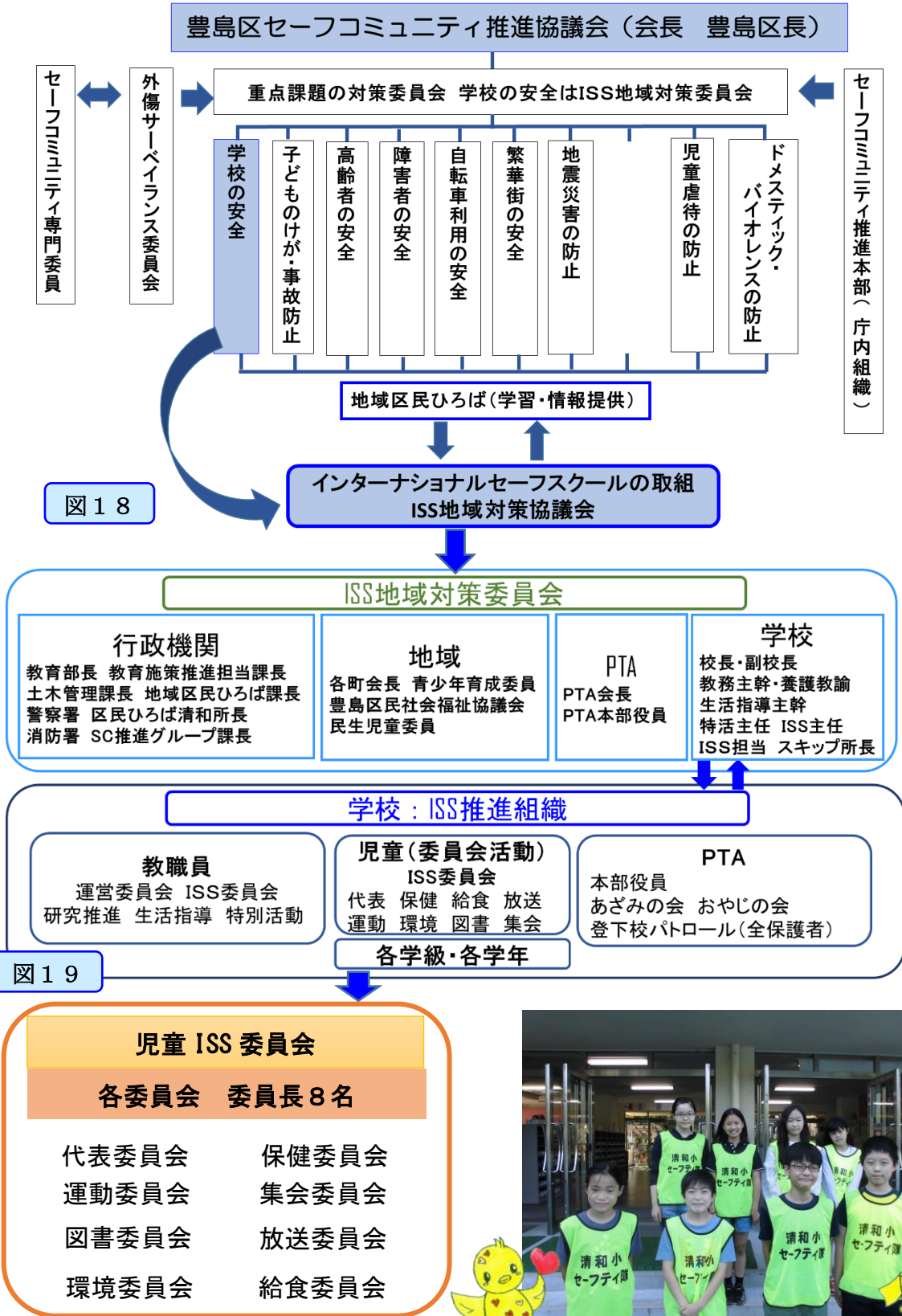


図18

図19

図20



指標2 セーフスクール推進組織とセーフコミュニティに基づいた地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策がある

本校の教育活動は、文部科学省、東京都教育委員会、及び、豊島区教育委員会の方針に基づいて進められています。

豊島区教育ビジョン2019

◎安全・安心な学校づくり

国際的なセーフスクール再認証校のノウハウを生かし、8つの中学校ブロックを中心とした普及・啓発を推進する。また、小・中学校連携教育の視点から、各中学校ブロックで、創意工夫を生かして取組を充実させる。

図21

豊島区立清和小学校の教育目標

- 考えを活かし挑戦する子
- ◎深く学び創造する子
- 認め合い豊かに成長する子

令和4年度 代表委員会 ISS スローガン



心も体も安全・安心
みんなでハッピー清和小😊



ISSの活動を通して、安全・安心な学校を目指して、
気付き・考え・実践する清和の子の育成を支援する。

図22

指標3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している。

ISS 活動一覧表①

下の「図23」は、ISS活動の一部をそれぞれ「環境」「年齢層」「活動内容」で整理したものです。なお、指標3、指標4、指標5の内容ごとに色分けしてあります。

■ 指標3
■ 指標4
■ 指標5

			1年	2年	3年	4年	5年	6年	教職員	家庭・地域	
身体的側面	学校内	校舎内	取組 2-1 カメさんマーク								
			取組 2-12 かかとピカピカキャンペーン								
		校舎外	取組 1-1 全教職員による毎月の施設・設備の安全点検								
			取組 2-13 ゴムチップの校庭での運動における運動靴の見直し								
	学校外	通学路	取組 2-2 白線キラリキャンペーン								
			取組 3-4 毎月の安全指導(危機回避能力の向上)								
心的側面			取組 2-6 ハートフルキャンペーン(委員会活動)								
その他			取組 3-28 避難所設営訓練(3-26・27・29・30) 自然災害等に備えた訓練								

図23

ISS 活動一覧表②

以下の「図24」「図25」は、すべてのISS活動を実施者ごとに整理したものです。

「図24」の赤文字の内容は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から中止したものです。また、青色でマーキングした内容は、新型コロナウイルス感染症感染防止等の観点から従来の活動内容を変更、あるいは、新規に取り組んだものです。それぞれ、「1 環境改善」「2 規則・ルール活動・人間関係づくり」「3 啓発・教育」の観点で分類しています。

なお、「図25」は、「図24」の活動内容を詳しく説明したものです。

実施者		児童	教職員	地域・保護者・ 関係機関	
体の けが	学校内	校舎内	1-4 児童による安全点検 1-5 あいロードからの発信 2-1 カメさんマーク 2-2 白線きり運動 2-3 児童集会時の低学年保護 2-4 On-Line ランチョン会議 2-7 あざみ活動 2-8 姉妹学級交流活動 2-9 GOTO 校庭キャンペーン 2-13 校庭での運動靴見直し 2-16 Meet 集会 3-1 児童 I S S 集会 3-2 食育活動 3-5 安全学習 3-8 6年生による1年生支援活動 3-24 ハンドソープ・消毒液補充 3-32 保健室来室データの集計	1-1 安全点検 1-2 けがデータの共有 1-3 安全課題の発見・共有 1-6 看護体制の再構築 1-7 週目標の引き継ぎ 1-8 図書室の開放 1-9 各教室消毒液の設置 1-10 教室の消毒 2-1 カメさんマーク 3-3 救急救命法講習会 3-4 安全指導 3-5 安全学習 プログラム作成 3-6 体育指導法の研修 3-7 児童ランチョン 会議指導 3-23 カルシウム アップメニュー 3-24 ハンドソープ・ 消毒液補充 3-32 保健室 来室データの集計	
		校舎外	2-9 GOTO 校庭キャンペーン 3-10 ユニセフ募金活動 3-17 自転車安全教室（3年） 3-30 避難訓練	1-6 看護体制の再構築 3-17 自転車安全教室 3-27 心肺蘇生法研修 3-30 避難訓練	3-17 自転車安全教室
	学校外	通学路	2-2 白線キラリ運動 3-16 1年生の集団下校	3-14 登下校の安全確保 3-16 1年生の集団下校	3-14 登下校の 安全確保 3-15 1年生の交通 安全教室（年2回） 3-25 反射板の配布
		地域	2-11 豊島ふるさと学習 3-18 地域安全マップ 3-19 親子通学路点検 （引き取り訓練）	2-11 豊島ふるさと学習 3-18 地域安全マップ 3-26 初期消火訓練 3-28 避難所設営訓練	2-11 豊島 ふるさと学習 3-18 地域安全マップ 3-19 親子通学路点検 3-28 避難所設営訓練 3-29 災害用仮設 トイレ設置訓練 3-30 避難訓練
心の けが	いじめ 等	2-5 あいさつ運動 2-6 ハートフルキャンペーン 2-7 あざみ活動 2-8 ハート・ワンタイム 2-10 人権の花 2-12 かかとピカピカキャンペーン 2-14 あいさつの木 キャンペーン 2-15 すてきらりんをみつけよう 3-9 図書委員児童による 読み聞かせ活動 3-31 i-Check	2-5 あいさつ運動 3-11 心のサポート 3-13 道徳授業研究 3-12 いじめ防止委員会 3-20 エンカウンター研修 3-21 いじめアンケート 3-31 i-Check	2-5 あいさつ運動 3-22 道徳講演会	

図 2 4

赤文字は中止したもの

青塗りつぶしは新たに取り組んだもの

図 2 5

ISS 活動一覧表③

1 環境改善

1-1 安全点検(月1回)		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	全教職員が点検個所を分担して、毎月1回担当施設・設備の安全点検を行います。				
1-2 けがの発生データの共有(生活指導夕会)		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎週金曜日、けがデータをもとに情報交換し、環境改善や生活指導を共有します。				
1-3 安全課題の発見・共有(ISS タイム)		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎週火曜日、低・中・高学年毎に、児童のISS活動様子や課題を話し合い、助言や支援内容について共通理解を図り、全教職員で学校改善に取り組みます。				
1-4 児童による安全点検		新規	継続	拡大	修正 終了
対象	児童				
取組概要	体育授業や校庭でのけが防止のため、体育委員による安全点検を行っています。				
1-5 ISS取組の歩みの発信(あいロード)		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	ISS活動の取組を紹介するため、1階廊下に活動内容を紹介する掲示物を張り出し、広報活動を行い、セーフスクールの歩みを記録しています。				
1-6 看護体制の再構築		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	校庭改修によるけがの増加を防ぐために、休み時間の看護人員を増やしました。また、使用できる学年を2学年にしています。				
1-7 週目標の引き継ぎ		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎週木曜日に今週と来週の看護当番が打ち合わせをします。週目標の振り返りや子供たちの課題などを話し合いながら次週の目標を設定しています。				
1-8 図書室の開放		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	休み時間に図書館を開放することで遊ぶ場所が分散され、校庭で遊ぶ人数が減ることのでけがの増加を防いでいます。教員が必ず1人付き、看護しています。				
1-9 各教室消毒液の設置		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	感染症対策のため、各教室の前に消毒液を設置しました。常に消毒して感染予防の意識を高めています。				
1-10 教室の消毒		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	下校後、ドアの取っ手や廊下のフックなど、子供たちがよく触れる場所を消毒して感染予防をしています。				

2 規制・ルール・人間関係づくり

2-1 カメさんマーク		新規	継続	拡大	修正
対象	児童、教職員、保護者				
取組概要	安全意識の向上とけが防止の注意喚起のため、保健委員が階段に「カメさんマーク」を貼り「右側通行」のルールを呼びかけています。				

2-2 白線きり運動(登校時の安全)		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	ISS 委員が右側通行を促す「白線キラリ運動」を行っています。交通マナーと交通安全意識の向上をめざす運動が、ISS 委員会から各委員会へと引き継がれています。 (「ハイタッチ運動」を修正・発展)				

2-3 児童集会時の低学年保護(集会をオンラインに切替)		新規	継続	拡大	修正	終了
対象	児童					
取組概要	児童集会で ISS 委員が低学年児童の安全確保のため、けがをしないように保護する活動を行っています。					

2-4 児童 ISS 委員による「ランチョン会議」		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	毎月 1 回、ISS 活動の取り組み状況や活動方針をオンライン上で話し合い、けが防止の計画を作成しています。				

2-5 あいさつ運動		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	年間を通して、全学級全児童が交代であいさつ当番として校門や玄関、廊下等で児童や教職員、地域住民に朝のあいさつを呼びかけています。				

2-6 ハートフルキャンペーン		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	友達のよさや自分がしてもらってうれしかったこと、言われてうれしかった言葉等をカードに書いて発表する活動を行っています。それぞれのカードを大きなハート型の紙に貼り出し、温かい学校づくりを行っています。				

2-7 異年齢集団活動(あざみ活動)		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	1 年生から 6 年生までの異年齢で「あざみ班」を構成し、遊びや全校遠足、清掃、給食等の活動を年間通して行っています。*あざみは校章の花				

2-8 姉妹学級交流活動(ハト・ワンタイム)		新規	継続	拡大	修正	終了
対象	児童					
取組概要	中休みに 1 人になる子がいないように、よりよい関係づくりをめざして代表委員会が呼びかけ、姉妹学級同士で遊ぶ活動に取り組んでいます。ISS 活動のシンボルの「ハトちゃん」「セイワン」にちなみ「ハト・ワンタイム」と名づけました。					

2-9 GOTO 校庭キャンペーン		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	運動委員会が提案し、2 月の寒い時期でも外で元気に遊べるようにしています。休み時間の始まりには放送で「外で元気に遊びましょう」と呼びかけています。				

2-10 人権の花活動		新規	継続	拡大	修正
対象	1年生・6年生児童				
取組概要	毎年取り組んでいる人権尊重活動のシンボルである「人権の花」の栽培活動に6年生と1年生が一緒に取り組んでいます。				

2-11 豊島ふるさと学習(町探検)		新規	継続	拡大	修正
対象	児童、教職員、地域住民				
取組概要	各学年の「生活科」「総合」の学習を中心に、自分たちの暮らす町のことをより詳しく知ったり、よさや課題を発見したりする学習活動を毎年行っています。自分たちにできることを考え、提案・実践していく力を高める活動に取り組んでいます。この活動を通して、地域の人々とのかかわりをより深めています。				

2-12 かかとピカピカキャンペーン		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	代表委員が学校の靴箱の様子を見て、「靴の乱れが心の乱れを表す」のではないかと考えました。かかとをそろえることで一日をすっきりと落ち着いた気持ちでスタートできることを願ってキャンペーンを行っています。キャンペーンの後も整頓する心が持続しています。				

2-13 校庭での運動靴見直し		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	新型コロナウイルス感染症の拡大による休校で体力が低下し、骨折が多く発生しました。その原因の一つが靴だと分かり、休み時間や体育などで校庭を使用する場合は、運動靴を履くように指導しています。				

2-14 あいさつの木 キャンペーン		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	心のつながりは挨拶からと考え、各クラスに木の葉形のカードを配布し、気持ちのよい挨拶している子を見つけたときには用紙に名前を書いてもらいます。模造紙に描かれた「あいさつの木」にカードを貼ることで挨拶がたくさんできている様子が伝わっています。				

2-15 すてきらりんをみつけよう		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	新型コロナウイルス感染症予防対策や校庭改修のため、教室の過ごし方や廊下・階段の歩き方が課題になりました。ISS委員が校内を巡回し、安全に行動できている「すてきらりん」さんを見付け、安全な行動を広げる活動をしています。自分たちから正しい行動ができるようになってきています。				

2-16 Meet 集会		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	各委員会からの報告、伝達、集会をMeetで行うことで、3密を防ぐことができ、感染症予防の対策となっています。				

3 啓発・教育

3-1 児童 ISS 集会		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	代表委員会および各委員会が、それぞれに ISS 活動の報告・各クラスのいじめ防止スローガンの発表を行っています。				
3-2 食育活動		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	給食委員会児童が栄養表示、献立や献立に関わるトピック紹介活動とともに、けが防止に向けた食育広報活動や「給食完食キャンペーン」等の活動に取り組んでいます。				
3-3 救急救命法講習会		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎年 1 学期に全教職員で、食物アレルギー対応の自主研修会や日本赤十字救急救命士による水難事故等対応の救急救命講習会を実施しています。				
3-4 安全指導(月1回)・安全学習		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	生活安全・交通安全・災害安全の各分野の安全に関わる知識・意識・危険回避能力の向上をめざし、安全指導計画に沿って指導をしています。提示教材を工夫し児童の「気付き」と「問題解決力」を大切に主体的な学びとなるよう実施しています。				
3-5 安全学習カリキュラム作成		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	各学年のカリキュラムに ISS 活動を関連付けた安全学習を加え、系統的な指導を行っています。				
3-6 体育指導法の研修		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	体育授業中の事故が多いため、体育研修に加えて、東京都教育委員会「コーディネーショントレーニング地区拠点校」の指定を受けて研修を行っています。保護者にも呼びかけ、一緒に研修しました。研修で学んだことを日々の体育指導に取り入れています。				
3-7 児童ランチオン会議の支援・指導		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	ISS 活動推進担当が毎月 1 回の児童 ISS 委員会の会議進行の支援・指導を行なっています。				
3-8 6年生による1年生支援活動		新規	継続	拡大	修正
対象	1 年児童				
取組概要	新年度の 4 月、6 年生がそれぞれの担当の 1 年生を決め、登校時に玄関や教室での荷物整理等の手順を支援し、学校生活をスムーズに行えるように応援しています。				
3-9 図書委員児童による読み聞かせ(オンライン)活動		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	年 2 回の「児童読書旬間」の活動として、図書委員の児童がオンラインや学校図書館で絵本の読み聞かせを行っています。絵本の物語を通して、思いやりの心等、温かい優しい心が大きくなっていくことを願って取り組んでいます。				

3-10 ユニセフ募金活動		新規	継続	拡大	修正
対象	児童、教職員、保護者				
取組概要	毎年1週間程度、代表委員が呼びかけて募金活動に取り組んでいます。集まったお金はユニセフに贈ります。募金活動を通して世界の子どもたちの現状を知ると共に、自分にできることを考え、実践する力を高めています。				

3-11 養護教諭やカウンセラーによる心のサポート		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	担任に加え、養護教諭やスクールカウンセラー（SC）が悩みや学校・学級生活等への不満を抱えている児童の相談相手となり、悩みを聞いたりアドアイスをしたりしています。SCは、5・6年生の全員面接を行い、児童が気軽に相談できるよう細やかな環境づくりを心がけています。				

3-12 いじめ防止委員会		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎月1回、各学級の児童の様子を報告し合います。「いじめ」の観点を中心に課題把握と対応策の共有を図り、いじめの「早期発見・早期対応」に取り組んでいます。				

3-13 道徳授業研究		新規	継続	拡大	修正
対象	児童、教職員				
取組概要	「道徳」の授業研究に取り組んでいます。児童の主体的な話し合い活動を指導すると共に、多様な見方・考え方、豊かな心の育成をめざして取り組んでいます。				

3-14 教職員、交通指導員、警察官、PTAによる 登下校の見守り		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	毎朝、通学路や校門前で朝のあいさつを交わす活動を通し、交通事故や不審者から児童を守る活動に取り組んでいます。PTAの方々には春と秋の「交通安全週間」に通学路の危険箇所でも見守りをします。巣鴨警察署の警察官も一緒に通学路のパトロールや校門での見守りをしてくださっています。				

3-15 1年生交通安全教室		新規	継続	拡大	修正
対象	1年児童				
取組概要	交通事故に遭いやすい1年生の入学当初と、2年生への進級間近な3月に巣鴨警察署の警察官に道路の歩き方を指導していただいています。3月には保護者も一緒に道を歩き、日ごろ見過ごしている危険な状況を再認識し合っています。				

3-16 新1年生の集団下校		新規	継続	拡大	修正
対象	1年児童				
取組概要	毎年、1年生入学後の約1ヶ月間は、1年担任と教育支援員等が付き添い、帰宅方向別のグループに付き添って下校時の安全確保のため下校指導・見守りを行っています。				

3-17 自転車安全教室 (学校、保護者、警察、交通少年団との協働活動)		新規	継続	拡大	修正
対象	3年児童				
取組概要	3年生の9月に、保護者・巣鴨警察署・交通少年団会長・自転車協会の方々の協力を得て、「自転車安全教室」を開催しています。交通ルールや自転車乗車時の安全確認・点検等について模擬道路を使って学習しています。				

3-18 地域安全マップの作成		新規	継続	拡大	修正
対象	3年児童				
取組概要	実際に地域を歩いて「地域安全マップ」の作成に取り組んでいます。				

3-19 親子通学路点検		新規	継続	拡大	修正
対象	児童、保護者				
取組概要	災害時や犯罪事件発生を想定した児童引き渡し訓練を実施しています。通学路上の危険箇所発見にも留意するよう安全意識の向上を図っています。				

3-20 エンカウンター研修		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	いじめの未然防止への取り組みとして、教員を対象にエンカウターの授業研修を行いました。学級開きや子供同士の間関係作りに取り入れることで、よりよい人間関係の構築を図り、心もからだも元気な学校を目指しています。				

3-21 いじめアンケート		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	いじめの実態調査を行い、いじめの早期発見、早期対応ができるようにしています。				

3-22 道徳講演会		新規	継続	拡大	修正
対象	保護者・地域				
取組概要	学校、家庭および地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、道徳教育の充実を図ることを目的として、「道徳地区公開講座」を行っています。				

3-23 カルシウムアップメニュー		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	新型コロナウイルス感染症拡大による休校で体力が低下し、骨折のけがが多くなったため、給食では、骨を強くするメニューを考え実施しています。				

3-24 ハンドソープ 除菌スプレー液の補充		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	保健委員会が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、休み時間に校内の手洗い場を周り、ハンドソープや除菌スプレー液の補充をしています。				

3-25 反射板の配布		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	児童を交通事故から守るため、反射板を配布し、暗闇でも車などから確認しやすくできるようにしています。自分の存在を知らせることで、交通事故のリスクを減らすことができます。				

3-26 初期消火訓練		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	自分たちで初期消火活動を行えるよう訓練を重ねています。消火器の取り扱い方や非常ベルの復帰のしかた等、実際の火災に備えます。				

3-27 心肺蘇生法研修		新規	継続	拡大	修正
対象	教職員				
取組概要	毎年、全教職員で心肺蘇生法やAEDの使用法の研修を行っています。実際に事故が起きた時のことを想定してシミュレーション訓練をすることで、適切に対応できるようにスキルアップしています。				

3-28 避難所設営訓練		新規	継続	拡大	修正
対象	地域・教職員				
取組概要	ISS 地域対策委員、PTA、教員、町会、区役所の方々と共に、清和小学校が実際に避難所になる設定で設営体験をしました。段ボールベット・仮設トイレ・応急栓の立て方・防災倉庫の中身の確認等の訓練を行いました。				

3-29 災害用仮設トイレ設置訓練		新規	継続	拡大	修正
対象	地域				
取組概要	地震などの大規模災害を想定した地域防災訓練を行い、地域住民が参加し、避難所で使用する災害用仮設トイレの組み立てに取り組みました。				

3-30 様々な場面を想定した避難訓練		新規	継続	拡大	修正
対象	児童・教職員・地域・保護者				
取組概要	火事や地震など様々な場面や時間を想定した避難訓練を行っています。児童が自分でどう避難するか判断して、行動できるようにしています。地域の方は、方面別下校や秋の交通安全運動時の見守りを行います。				

3-31 I-Check		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	学校生活の満足度、学校生活における意欲を知ることができる質問紙診断を行っています。また、全教員で、I-Check を活用し、子供たちに働きかけるために、I-Check の見方を学ぶ研修会も行いました。				

3-32 保健委員会による保健室来室データの集計		新規	継続	拡大	修正
対象	児童				
取組概要	けがをした場所が目で見ですぐ分かるように、校舎図上に学年毎の色分けをしたシールを貼っています。全校児童がシールの場所や数を知り、危険な場所を確認し、けがをしないよう落ち着いた行動ができるようにしています。				

指標 3 の取組例

取組活動例の「問題」番号は、第4章「図13」の安全診断の問題番号です。

【 】の数字は「図25」の取組番号です



問題⑤【3-11】1年生交通安全教室

図 2 6



【3-18】3年生地域安全マップづくり

図 2 7

【3-11】「1年生交通安全教室」

小学生の学年別交通事故件数は、1年生が最も多くなっています。そこで、巢鴨警察署の方にご協力いただき、毎年「交通安全教室」を行っています。実際に学校周辺の道路で横断歩道の渡り方や歩道の歩き方を学習します。その結果、普段の登下校でも手を挙げて横断歩道を渡ったり、車に気を付けて歩いたりする児童が増えました。

【3-18】「3年生地域安全マップづくり」

3年生は、「地域の安心・安全な場所」を探するために学校の周りを歩いて調査しました。学校の周辺には、犯罪が起こりやすい『入りやすく見えにくい』場所と、安全な『入りにくく見えやすい』場所があることが分かりました。実際に地域を回ることによって、これからは安全な場所を選んで遊ぼうという意識が高まりました。

指標4 ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラムを実施している

ハイリスク① 休憩時間や体育授業中のけがが多い。校内での骨折も増えている。		根拠	取組	
人	全児童	図4 図6	環境	【取組 1-6】看護体制の再構築
場所	校庭・体育館		教育・啓発	【取組 3-6】入念な準備運動 【取組 3-6】運動技能の丁寧な指導
状況	休憩時間や体育授業中の骨折が増えている。		規則・ルール	【取組 2-13】運動靴の見直し 【取組 1-6】遊び場・時間の指定
ハイリスク② 首都直下型大地震の発生リスクが高い。		根拠	取組	
人	全児童・教職員・保護者・地域住民	図12	環境	【取組 3-28】避難所設営訓練 【取組 3-29】災害時用トイレ設置訓練
場所	学校・家庭・公共施設 等		教育・啓発	【取組 3-26】初期消火訓練 【取組 3-27】心肺蘇生法訓練
状況	③首都直下型大地震の30年内の発生率が70%と高い。		規則・ルール	【取組 2-13】 ・様々な場面を想定した避難訓練 ・自衛消防訓練 ・地域総合防災訓練
ハイリスク③ 新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない。		根拠	取組	
人	全児童・教職員・保護者・地域住民	図13	環境	【取組 1-9】校内の消毒活動 【取組 1-10】手指の消毒の徹底
場所	学校・家庭・公共施設 等		教育・啓発	【取組 1-3】安全課題の共有 【取組 1-5】広報活動
状況	新型コロナウイルス感染者が増加 ・2021年度 児童の約15%感染 ・2022年度4月～6月 児童の約7%感染		規則・ルール	【取組 2-16】 ・クラスルームでのISS会議 ・集会委員会のMEET集会 ・アルコール・ハンドソープの補充活動

図28

指標 4 の取組例

ハイリスク①（問題③） 休憩時間や体育授業中のけが防止

取組【1-6】 看護体制の再構

《校庭の割り当て》					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
中休み	12年生	46年生	13年生	45年生	13年生
昼休み	46年生	23年生		12年生	56年生
教室	3・5年	1・5年	2年	3・6年	2・4年

遊ぶ前と後は手洗いをします。

《体育館の割り当て》					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
中休み	5年生	3年生	5年生	1年生	4年生
昼休み	3年生	4年生		6年生	2年生

令和3年度 看護当番表						
	1	2	3	4	5	6
A	上原	依田	木村	岸本	川島	
B	植竹	横矢	藤井凌	望月	高瀬	三木
C	岸	関	藤井利	小森	佐藤	

図 30

図 29 休み時間の校庭と体育館の使用割り当てを変更しました。
校庭や体育館で遊ぶ学年を減らすことで、児童の接触・衝突防止を図りました。



図 31

休み時間に校庭を見守る教員の看護体制を再構築しました。看護当番の教員と校庭の使用割り当て学年の担任とで看護する位置を決め、校庭全体を見守れるようにしました。危険な行動をしている児童に声をかけることにより、けがの未然防止に努めました。

ハイリスク②（問題⑧） 首都直下型大地震等自然災害

取組【2-13】 様々な場面を想定した避難訓練

火事や地震など様々な場面を想定した避難訓練を毎月行っています。
休み時間中の避難訓練では、児童がそれぞれ活動している校庭や体育館、教室からどのように避難すればよいかを考えました。
自分の命を自分で守るために、考え、行動することが大切だと気付きました。



【3-30】休み時間中の避難訓練

図 3 2



【3-30】二次避難場所への避難訓練

図 3 3



【3-30】防火扉使用避難訓練

図 3 4

防火扉使用避難訓練では、実際に防火扉を閉めた上で防火扉の使い方を確認しました。防火扉が閉まっている際には、一人一人が防火扉を開けて避難しなければならないことが分かりました。

さらに、二次災害発生に備えた避難訓練も行いました。学校の近隣で火災があった場面を想定し、大塚ろう学校へ避難しました。いつでも校庭に避難するのではなく出火場所によっては避難する場所が変わるなど、状況に応じた行動をすることが必要であることを確認しました。

ハイリスク③（問題⑨） 新型コロナウイルス感染症拡大のリスク



【1-9】消毒液の設置

図 3 5



【1-10】教室の消毒

図 3 6

新型コロナウイルス感染症に関しては、「学校では感染させない」の信念のもとに、拡大防止のため健康観察の徹底や消毒液の設置等の対策をとりました。児童は手洗い後に消毒を行っています。

教室の消毒については、教員が消毒液を不織布雑巾に噴射し、児童が触れることの多いドアやスイッチなどの拭き取り消毒を行っています。この取り組みにより、児童・教職員の予防意識が高まり、感染拡大防止策の徹底が図られています。

感染拡大防止のため、2020年3月～5月は臨時休校となりました。6月は分散登校を実施し、通常登校になったのは7月からでした。

特に、1年生は小学校での新たな環境に適応する時期が大幅にずれ込んだため、幼児期から児童期への様々な成長面での遅れが見受けられました。また、新しい学級編成が行われる第3学年と第5学年の児童も新たな人間関係の構築に例年よりも時間が必要でした。さらに、集団遊びや体育授業の機会を失ったことによると考えられる運動能力や体力の減少傾向も見受けられました。これらの結果、けがの発生状況や「心のけが」であるいじめ等の訴え状況に変化が見受けられ（図6、図7、図13）、新たな課題となりました。

指標5 根拠（エビデンス）に基づいた取組を行っている

第4章の「安全診断のまとめ」で示した問題点を重点的問題として設定し、以下のような取組を推進しました。

	場所	問題	取組
身体的側面	学校内	校舎内 ①休憩時間の教室でのけがが多い。 ・休み時間の教室でけがをすることも多い。	取組1 「Go to 校庭」キャンペーン【2-9】 取組2 読書への啓発【1-8、3-9】 取組3 「すてきらりんをみつけよう」【2-15】
		校舎内 ②体育授業中の体育館でのけがが多い。	取組4 指導法の改善【3-6】 ・けが防止研修や段階的な技能指導
	学校外	校舎外 ③休憩時間の校庭でのけがが多い。 ④体育授業中の校庭でのけがが多い。 ・陸上運動系でけがをすることが多い。	取組5 看護体制の再構築【1-6】 取組4 指導法の改善【3-6】 ・けが防止研修や段階的な技能指導
		通学路 ⑤登下校時の交通事故発生の危険性が高い。	取組6 安全指導【3-4】 ・町会作成「防災地図」の情報提供【3-18】
	学校外 その他の地域	⑥接触等の事故が毎年1件程度ある。 ・狭い通学路を通る自転車などの交通量が多い。 ・豊島区では5～14歳の自転車事故が一番多い。	取組7 3・4年生対象にPTAや巣鴨警察署と協働した自転車安全教室【3-13、3-17】 取組8 安全グッズ（反射板）の配布【3-25】

図37

	場所	問題	取組
心的側面	学校内	⑦毎年いじめの訴えがある。 ・良好な人間関係の構築 ・コミュニケーション力の向上 ・思いやりの心の育成	取組9 定期的なアンケートの実施【3-21】 取組10 定期的ないじめ防止対策会議の実施【3-12】 取組11 「i-check」の実施【3-31】 取組12 「あいさつの木」【2-14】 取組13 エンカウンター研修【3-20】 取組14 「心の安心 いじめいじわるOスローガン」【3-1】
		その他 ⑧首都直下型大地震のリスク ⑨新型コロナウイルス感染症のリスク	取組15 避難訓練・地域総合訓練 他【3-3、3-26、3-27、3-28、3-29、3-30】 取組16 消毒活動【1-9、1-10、3-24】

図38

指標5の取組

問題① 休憩時間の教室でのけが防止

児童の主体的な活動①② 【保健委員会・放送委員会】

【2-1】カメさんマーク



図39



図40

廊下や階段を落ち着いて歩いてけがを防ぐように、保健委員会が「カメさんマーク」の貼り換えを行いました。また、放送委員会が休み時間の終了時に、落ち着いて校舎内に入るように呼びかけました。

児童の主体的な活動③ 【運動委員会】

【2-9】Go to 校庭キャンペーン



図41

運動機会を増やして体力を向上させようと、休み時間には校庭で遊ぼうと呼びかけます。

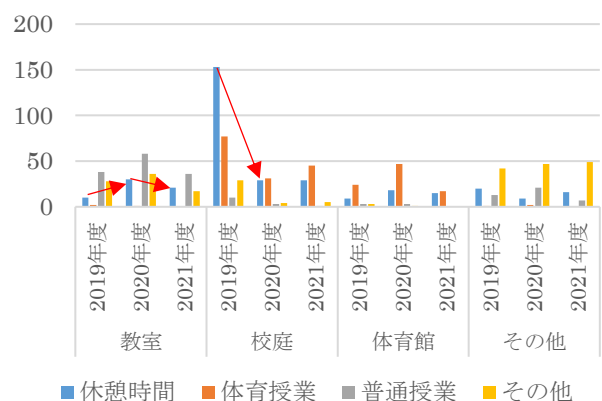
大規模校舎改築工事が4年間続き校庭での活動制限が多かったこと、新型コロナウイルス感染症の拡大により運動機会が減り、運動能力・体力の減少が見られたこと、そして、校庭の仕様が芝からのゴムチップへと環境が変わったことなどにより、些細なことでのけがが増えました。

休憩時間に校庭を使用できる学年を割り当てて(図26)、児童の数を減らしました。その結果、校庭でのけがを減らすことができました。一方で、校庭に遊びに行けない、行かない児童が増え、教室でのけがも増えました。(図6)

教室での怪我を減らすために運動委員会では、校庭の割り当て日には元気に「校庭に出て遊びましょう」と教室にいる児童を減らす活動に取り組みました。

図6再掲

場所・場面別けがの発生件数



児童の主体的な活動④ 【図書委員会】

【1-8】図書室の開放・読書シール



図 4 2



図 4 3

休み時間の教室でのけが防止の取組として、図書室の開放を行いました。図書室の安全な利用の仕方と呼びかけたり、本を読みに来た児童がシールを貼っていく「読書シール」の取り組みを行ったりして、楽しく安全に過ごせるようになりました。

児童の主体的な活動⑤ 【ISS 委員会】

【2-15】すてきらりん（安全な行動をしている人）を見つけよう



図 4 4

- ・廊下・階段の歩き方
- ・教室遊びの過ごし方

との意見が多く出ました。正しい行動をしている人を褒める活動を行いました。

ISS 委員会から放送するで紹介することにより、全校児童に正しい行動を広げることができました。

I S S 委員会で学校の課題を話し合った結果、コロナ感染症予防対策や教室での過ごし方、廊下・階段の歩き方が気になる

児童の主体的な活動⑥ 【給食委員会】

【3-2】食育活動：お話メニュー・カルシウムアップメニュー



図 4 5



- ・サーモンときのこの
クリームスパゲッティ
- ・ブロッコリーとコーンの
サラダ
- ・美生柑 ・牛乳

食育活動を通して健康で安全・安心な生活ができるように様々なアイディアを出し合いました。骨折防止につながるように

との思いから栄養士の先生に「カルシウムアップメニュー」を考えていただきました。

問題② ④ 体育授業中の体育館・校庭でのけが防止

教員の体育指導法研修

【3-6】 コーデネーション
トレーニング



図 4 6

【3-6】 体幹トレーニング



図 4 7

けがの防止につながる体の使い方を子供にも指導できるように、専門家を講師に招き学びました。どのように立つと転びにくいのか、体はどのようにつながっていて、どこからどのように動かせばけがを防げるのか等を学びました。

土曜授業公開では、保護者の方にも参加していただき子どもたちと一緒に経験しました。

問題③ 休憩時間の校庭でのけが防止

休み時間の校庭・体育館の使用割り当てと教員の看護体制の再構築

児童のけが防止のために休み時間の校庭・体育館の割り当てを変更しました。(図 2 9) 校庭や体育館で遊ぶ学年を減らすことで、児童の接触・衝突防止を図りました。

また、休み時間に校庭を見守る看護体制を再構築しました。看護当番と学年の担任が看護する位置を決め、校庭全体を見守れるようにしました。

【1-6】 休み時間の学年別使用場所の割り当て

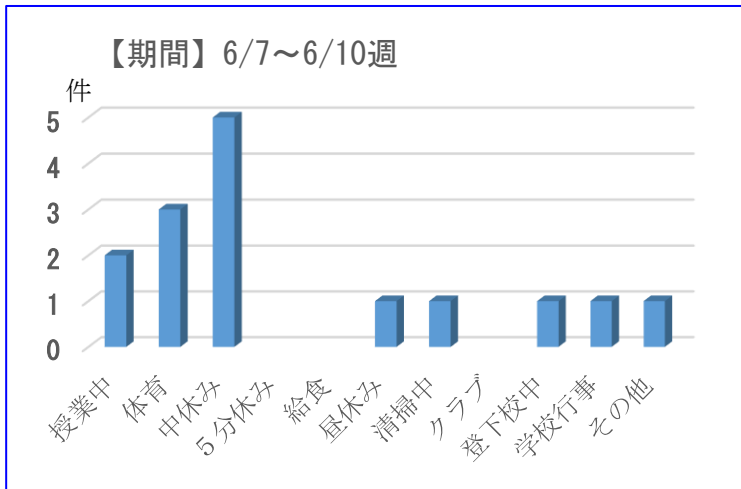
《校庭の割り当て》					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
中休み	12年生	46年生	13年生	45年生	13年生
昼休み	46年生	23年生		12年生	56年生
教室	3・5年	1・5年	2年	3・6年	2・4年

遊ぶ前と後は手洗いをします。

《体育館の割り当て》					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
中休み	5年生	3年生	5年生	1年生	4年生
昼休み	3年生	4年生		6年生	2年生

図 2 9 再掲

【1-3】職員 ISS タイムでの情報共有（安全課題の発見・共有）



- ・先週のけがが 11 件
- ・今週のけがは 15 件 (+4 件)
- ・先週は 6 日間の登校日 (運動会のため)
- ・今週は 4 日間の登校日だったがけがが増加
- ・中休みのけがが一番多く、校庭と教室でのけがが最多
- ・今週も男子の来室、特に 2 年生男子が多かった。
- ・打撲が一番多かった。
(毎日首から上のけがが発生: 鼻 2 件、頭 1 件目 1 件)
- ・原因は児童自身の不注意が多い。
- ・「場の設定」は教師が指導できるけが予防です。

図 4 8

週に 1 度の生活指導会議で図 4 9 のように保健室データの集計・分析結果を報告します。

また、看護当番引継ぎでは、児童の状況や課題を基に次週の安全指導の方針を決め、全教職員で確認します。(図 5 0)

さらに、「ISS タイム」では、児童の安全面での様子や課題を学年ごとに出し合い、校務パソコンに書き込み、次週の指導に生かせるように、全教職員での情報共有を行っています。(図 4 3)



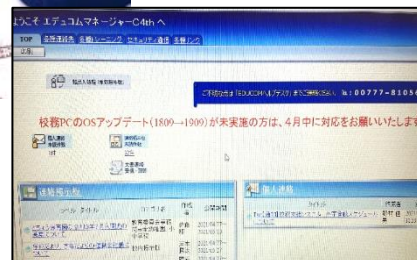
【1-7】安全指導の検討

図 4 9



【1-3】ISS タイム

図 5 0



問題⑤ 登校時の交通事故防止

児童の主体的な活動 【ISS 委員会】

【2-2】白線キラリキャンペーン



図 5 1

【2-2】「白線キラリキャンペーン」

児童 ISS 委員会が交通安全意識の向上と交通マナーの向上をめざし、「右側通行」を促す白線キラリ運動を行っています。

ISS 初認証時は「ハイタッチ運動」として取組んでいましたが、新型コロナウイルス感染症対策として活動を修正して取り組んでいます。

学校・保護者との協働活動 【PTA】

【3-14】PTA 役員による登校時の見守り活動



図 5 2

【3-14】「PTA 役員による登校時の見守り」

毎朝行っている教員の見守り活動に加えて、新学期スタート時期や春と秋の「交通安全週間」の時には、PTA 役員、町会、地域 ISS 委員会が通学路の危険箇所での見守りをします。巣鴨警察も常時通学路のパトロールや校門での見守りをしてくださっています。

問題⑥ 接触等の事故が毎年 1 件程度ある。

安全指導：児童の主体的な学び ～気付き・考え・実践する～

【3-4】「接触事故未然防止の学習」



図 5 3

月に 1 度の安全指導の学習内容の一つとして、交通事故の未然防止の学習があります。出会い頭の事故のイラストや写真から子どもたちが課題を発見し、自分たちで解決策を考えることができました。

ヒヤリハット体験

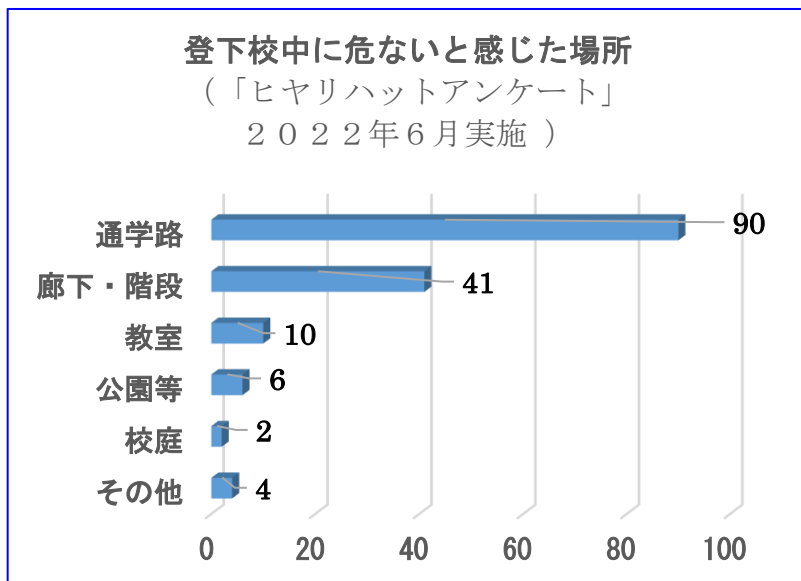


図9再掲



図54

学校周辺の通学路は道が狭く、3人並ぶと自転車しか横を通れません。1列に並ばないと自動車は通れません。おしゃべりに夢中になっていると、すぐそばを自動車が通りドキッとします。

【3-4】「教材提示の工夫」

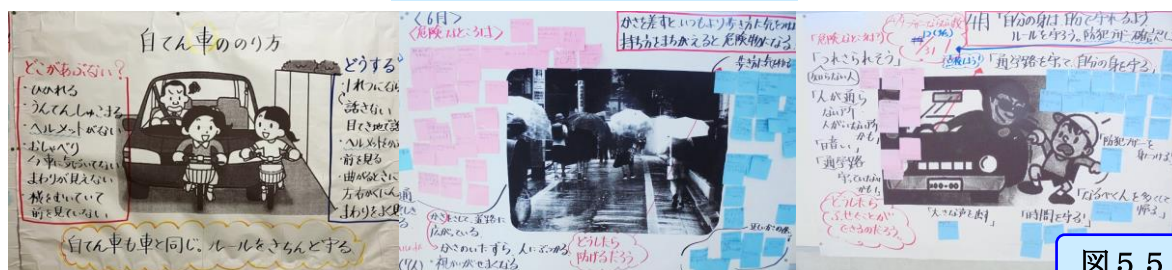


図55

月に1回、各学級で安全指導を行っています。危険な箇所や気を付けるべきことなど、子どもたち自身が考え、話し合うことで、安全に関する意識を高められるようにしました。

また、毎月の安全指導前には、全教員で指導内容の検討・確認を行い、低学年は、実際の写真ではなくイラストを用いて注意すべきところを焦点化しやすく工夫するなど、各学年の発達段階に合わせた指導を心がけています。学習後は廊下に掲示し、いつでも振り返られるようにすることで、安全に関する意識が高まりました。

PTA や警察署と協働した交通事故防止

【3-17】 自転車交通安全教室



図 5 6

【3-15】 交通安全教室



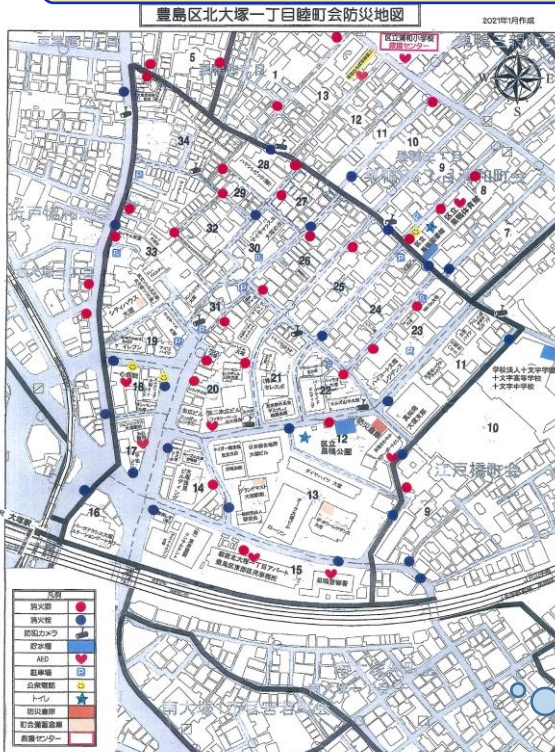
図 5 7

PTA・交通少年団・自転車店の方々のご協力をいただいて自転車交通安全教室を行います。

また、交通事故に遭いやすい1年生の新学期当初と、2年生への進級間近な3月に巣鴨警察の警察官に指導をしていただき、道路の歩き方を指導していただいでい

ます。3学期には保護者も一緒に道を歩き、日ごろ見過ごしている危険を再認識し合っています。

地域と共に安全確保（情報・防犯グッズの提供）



【3-18】 町会作成の防災地
(防犯カメラ・AED 設置マップ)

図 5 8



【3-25】 反射板の
配布

図 5 9

毎年、町会が作成した防災地図の情報提供いただいています。AED、防犯カメラの設置場所が分かるので、接触事故などが起きた際に有効活用することができます。

また、新入学生全員に反射板を配布し、ランドセルに付けさせることにしました。東京都では、1年生の交通事故が多発している

ので、自動車や自転車に自分がいることを知らせることで、事故を防止することができます。

接触事故等が起きた際に有益な
・AED
・防犯カメラ
の設置場所が分かる

問題⑦ 心のけがの防止

児童の主体的な活動 【ISS 委員会・代表委員会・全児童】

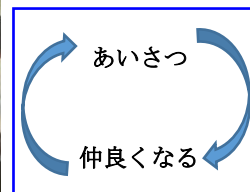
【2-14】 あいさつの木キャンペーン

代表委員会が全児童に向けて「どんな学校にしたいか。」アンケートを行いました。

「あいさつがしっかりとできる」「心もからだも元気な学校」にしたいとの意見が多く集まりました。



図 6 0



そこで、あいさつは「仲良しのスタート」と考え、「清和小あいさつの木キャンペーン」を行いました。

素敵なあいさつができた人の名前を掲示しました。あいさつの輪が広がることにより、同じ清和小学校に通う仲間として、安心して声をかけ合える関係づくりができました。

「あいさつの木キャンペーン」とともに、「いじめいじわる0」スローガンづくりにも取り組みました。それぞれの学級で、いじめについて学び、考え合って学級のスローガンを作りました。

クラスに貼りだし、スローガンに込めた思いを常に意識できるようにしました。

【2-6】

「いじめいじわる0」スローガン



クラスに掲示



常に意識できる

図 6 1

【2-12】 かかとピカピカ キャンペーン



図 6 2

「下駄箱がきれいだと自分たちも気持ちがいいし、正しい行動ができると心が落ち着く。」という児童の発想から、ISS委員会が行った「かかとピカピカキャンペーン」を代表委員会が引き継ぎ、2年連続で下駄箱の靴のかかとを揃えるキャンペーンを行いました。心穏やかに学校生活を送る取組になりました。

教員・保護者の取組

【3-20】エンカウンター研修



図 6 3

【3-22】道徳講演会



図 6 4

エンカウターの授業研修を行い、実践例を体験することで、学級開きや子供同士の人間関係作りに取り入れることができました。

また、地域にも家庭教育や道徳教育の価値を知らせることができました。

問題⑧ 首都直下型大地震のリスク

自然災害等に備えた教職員の自主訓練

【3-26】初期消火訓練



図 6 5

【3-28】心肺蘇生訓練



図 6 6

教職員は、自衛消防訓練を行います。初期消火が自分たちで行えるよう訓練を重ねています。

消火器の扱いや非常ベルの戻しかた等実際の火事に備えます。

心肺蘇生法訓練も毎年行っています。実際に救助隊の人に渡すまでの流れが分かりました。

教職員・PTA/地域住民・行政の協働活動「地域防災訓練」

【3-28】避難所設営訓練・【3-29】災害用仮設トイレ設置訓練



図 6 7



図 6 8

ISS 地域対策委員、PTA・教員・町会・区役所が参加し、学校が、避難所になることを想定し訓練をしました。

段ボールベット・仮設トイレ・応急栓の立て方・防災倉庫の中身の確認等の体験をしました。

問題⑨ 新型コロナウイルス感染症のリスク

児童の主体的な活動 【ISS 委員会】

【3-24】 ハンドソープ・アルコールの補充



図 6 9

【2-4】 Web ISS 委員会 各委員長が意見を交換し、活動を計画



図 7 0

保健委員会は、ハンドソープ、消毒液の補充を毎日行い、安心・安全に生活できるよう環境整備に努めています。

児童の主体的な活動 【主会委員会・給食委員会・図書委員会 ISS 委員会】

【2-3】 密を避けるため、体育館に集まらず各教室で MEET 集会を行う



図 7 1 集会委員会



図 7 2 給食委員会



図 7 3 図書委員会

各委員会が感染症対策のため、MEETで行う集会を考えました。密集することを避けることができ、安心して楽しむことができました。

指標 6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

本校では「体のけが」および「心のけが」の発生頻度や原因等を下の「図 7 6」のように収集・記録し、対応策の策定や問題解決の取組みに生かしています。

安全診断と成果確認に活用する情報・データ

		収集するベータや情報	コンテンツ
体のけが	学校内のけが	1. 保健室でのケガの記録 (毎月集計) 2. スポーツ振興センターの記録 (3か月に一回集計)	◎ケガ情報 ・発生場所 ・発生(活動)時間 ・ケガの種類・重症度 ・受傷者(学年・性別)
	学校外 (家庭・地域) のけが	3. 学校・家庭連絡帳	◎ケガ情報 ・発生場所 ・発生(活動)時間 ・ケガの種類・重症度 ・受傷者(学年・性別)
心のけが		4. 学校生活アンケート	○いじめアンケート ○心と体のアンケート ○心理検査 ○S Cによる全員面接

図 7 4

振り返りに基づいた改善の PDCA サイクル

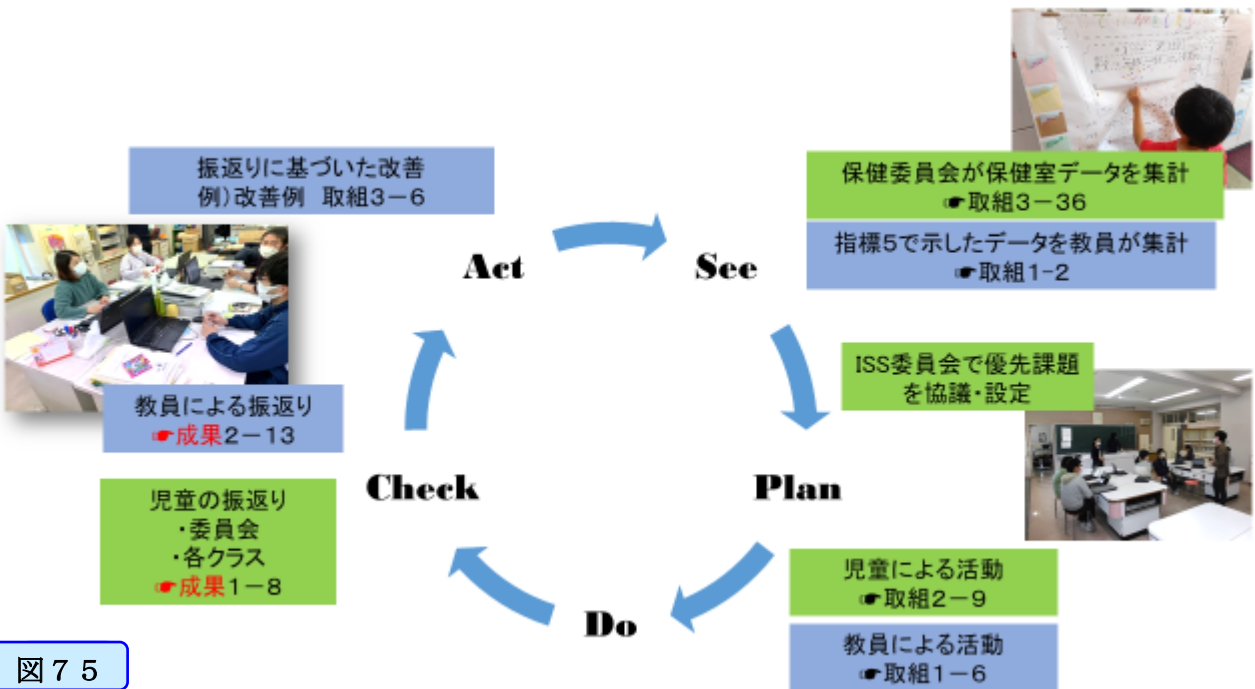


図 7 5

指標7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある

様々なプログラムにより短期的にも長期的にも改善した項目が多い。保健室データの分析や会議後の振り返り・ISS タイムデータの共有化をしっかりと行うことで、効果を評価することができた。

取組	目標	活動評価	成果の確認(評価)		
			短期(意識・知識の変化)	中期(行動態度の変化)	長期(状況の変化)
取組1 Go to 校庭 キャンペーン 取組2 読書への啓発 取組3 すてきらりん をみつけよう	①休憩時間の教室でのけがを減らす。	・運動委員 放送委員 による呼びかけ (常時) ・運動委員 による見回り (常時)	・毎月の委員会活動日に 振り返りを行う。 ・保健室けがデータを 毎週金曜日に教職員に 周知、対応方針確認 ・ISS タイムでの情報共有 ★教室残留者数・ 図書室利用者数の確認 (学期ごとに集計し、 指導を見直す。)		・教室でのけがの減少を数値化し、確認する。 ・通院を伴うけがの減少を数値化 (保健室データ)
			【教室でのけがの発生件数・骨折等の件数】 2019年度：10件 2020年度：30件 (+200%) 2021年度：24件 (-20%)		※教室での骨折等 通院を要するけがは0件

図76

取組	目標	活動評価	成果の確認(評価)		
			短期(意識・知識の変化)	中期(行動態度の変化)	長期(状況の変化)
取組4 指導法の改善 ・ケガ防止研修、段階的な技能指導	②体育授業中の体育館・校庭でのケガを減らす ・骨折等、通院を伴うケガを減らす	・体育指導法研修	・保健室けがデータを毎週金曜日に教職員に周知、対応方針確認 ・ISS タイムでの情報共有 ・学期ごとに集計し、指導を見直す。		通院を伴うケガの減少を数値化 (保健室データ)
			【校庭】 2019年度：77件 2020年度：31件 (-60%) 2021年度：54件 (+74%) 【2019年度比；-30%】	【体育館】 ：24件 ：47件 (+96%) ：23件 (-31%)	※体育授業中の骨折件数 2019年度：1 2020年度：4 2021年度：1

図77

取組	目標	活動評価	成果の確認(評価)		
			短期(意識・知識の変化)	中期(行動・態度の変化)	長期(状況の変化)
取組5 看護体制の再構築	③休憩時間の校庭でのけがを減らす。 ・骨折等、通院を伴うけがを減らす。	・校庭使用割り当て設定 ・看護当番体制の再構築	・保健室けがデータを毎週金曜日に教職員に周知、対応方針確認 ・ISSタイムでの情報共有 ・学期ごとに集計し、指導を見直す。		通院を伴うけがの減少を数値化(保健室データ)
図78			【校庭でのけがの発生件数】 【骨折等の件数】 2019年度：269件 2019年度：3件 2020年度：67件 2020年度：3件 (-75%) 2021年度：0件 2021年度：93件(+39%) 【2019年度比；-65%】		

取組	目標	活動評価	成果の確認(評価)		
			短期(意識・知識の変化)	中期(行動・態度の変化)	長期(状況の変化)
取組6、7 安全指導 取組8 反射板の配布	④交通事故ゼロ 自ら安全な行動を判断できる。 自ら交通ルールを守って行動できる。	・PTA役員・地域住民による見守り活度 ・1・2年生の交通安全教室 ・3・4年生の自転車安全教室	・交通安全週間の振り返り ・交通安全教室の振り返り ・自転車安全教室の振り返り ★交通事故は0件 ★「ヒヤリハット経験」：図7参照 ・2022年6月調査では通学路での「ヒヤリハット経験」は90件あった。		
図79					

取組	目標	活動評価	成果の確認(評価)		
			短期(意識・知識の変化)	中期(行動・態度の変化)	長期(状況の変化)
取組9 いじめアンケート 取組10 いじめ防止対策会議 取組11 i-checkの実施	⑤いじめ・不登校の件数を減少	・いじめアンケート(年3回) ・i-check(年1回) ・SC面談(年間) ・あいさつの木(年3回) ・心の安心スローガン(年1回) ・道徳エンカウンター研修 ・学校評価	・ISSタイム ・いじめ、不登校対策会議の情報共有 ・i-checkの実施と、結果分析・情報共有 ・児童ISS委員での「あいさつの木」集計発表 ・「心の安心スローガン」作品紹介 ※「あいさつの木」「心の安心スローガン作品紹介」活動後には、児童の言動から意識の高まりや態度の向上が見受けられる。		
図80				★図10参照 【いじめの訴え件数】 2019年度：38件 2020年度：30件 2021年度：37件	

【指標 7 の成果の紹介】

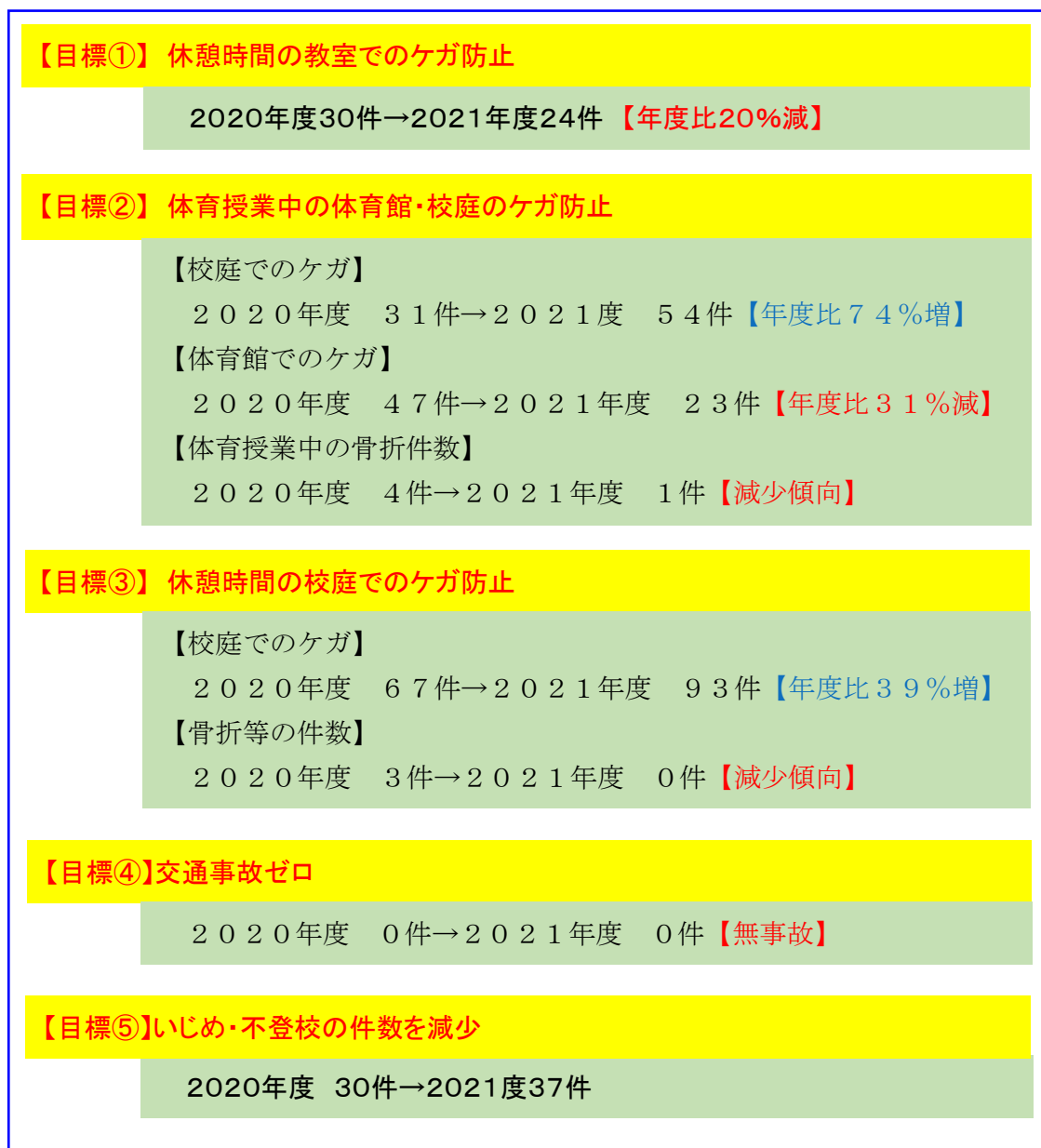


図 8 1

- 図書館の開放、各委員会の啓発活動、休み時間の遊びの工夫など、様々な取り組みにより、
【目標①】 休憩時間の教室でのけがは、前年比20%減となった。
- 体の使い方学習や看護当番の再配置、休み時間の学年活動場所割り当て、児童によるけが防止のめあてをもつ活動により、
【目標②】 体育授業中の体育館・校庭のけがは減少した。
- 月一度の安全教育・登下校の見守り、学年に応じた交通安全教室等により
【目標⑤】 交通事故は、今年度も「0」である。

指標 8 国内・国際的ネットワークへ継続的に参加している

	区 内	国 内
2018 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○高南小学校事前審査会出席 ○朋有小学校、富士見台小学校、高南小学校現地審査会・認証式出席 ○豊島区セーフコミュニティ推進会議出席 	<ul style="list-style-type: none"> ○厚木市立妻田小学校 現地審査会出席 ○秩父市立花の木小学校・ 第二中学校現地審査会 出席
2019 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○仰高小学校、池袋本町小学校現地審査会出席 ○仰高小学校、池袋本町小学校、清和小学校 合同認証式出席 	
2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○仰高小学校との 児童 ISS 委員会情報交換会 ※新型コロナ感染症感染防止のため活動中止 	
2021 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○さくら小学校、池袋第一小学校現地審査会出席 ○さくら小学校、池袋第一小学校、千川中学校、池袋中学校の合同認証式リモート参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○松原市立小学校 現地審査会リモート参加

図 8 2

仰高小学校との ISS 委員交流会議



図 8 3



図 8 4

仰高小学校との ISS 交流会議です。

令和 4 年度は、Meet で行いました。

各委員会での取り組みを互いに発表し、具体的な取り組みなど質問し合っ
て、情報共有をしました。



2019年11月現地審査



2020年1月認証式

図 8 5

2019年11月7日に、グレースバーバー先生と白石陽子先生をお迎えして、清和小学校で現地審査を行いました。そして、2020年1月23日に初の認証式を迎えました。写真は、その年の児童 ISS 委員会のメンバーです。



9 これまでの成果と問題点

9-1 成果や気付き

成果

- ◎ 安全指導・ISS タイムを**継続**している。
 - ➡ 子供も教師も保護者・地域住民も、「安全・安心ですてきな学校づくり」の担い手として「学校をよりよくしていこう」とする学校風土を構築できている。
- ◎ 2020年度1月～2月に骨折のけがが多かった。
 - ➡ 2021年度は年間を通して**2件と減少**させることができた。
(2020年度 7件→2021年度 2件)

気付き

- 校庭改修時(2020年度)に「**外遊びは上履き**」で遊ぶようにした。
 - ➡ 骨折が多発 (2019年度3件→2020年度7件)
原因の分析を行い、2021年度は「**外遊びは外履き**」でとした。
 - ➡ 校庭での骨折を減らす (2021年度2件)一つの要因になったと考える。

各クラスでけが防止の授業を行い、自分でめあてを決めました。

体育授業の際には、その時間に行う運動に使う体の部分を中心に、十分に準備運動をすることで、けがの防止に努めることができました。

9-2 現時点での問題点と今後の方向性

現時点での問題点と今後の方向性問題点が2点あります。

まず1点目の問題は、「心のけがを訴える児童の増加」に対する方策として、児童アンケートを継続して行い、教職員でその結果を共有しながら、不登校やいじめの未然防止に努めます。

また、児童の主体的な活動を拡大させ、「心と心のつながり」を意識した委員会活動や異年齢班活動に取り組みます。

【問題点①】心のけがを訴える児童の増加

【今後の方向性①】

児童アンケートに
継続的に取り組む
↓
結果を共有
↓
不登校・いじめの
未然防止

【今後の方向性②】

児童の主体的な活動を拡大
・特別活動
・委員会活動
・縦割り班活動
↓
「心と心のつながり」

2点目の問題は、「教職員の異動に伴う、これまでの活動の継承・伝達」に対する対策として、年度末に引継ぎ資料を作成するとともに、年度初めに清和小 ISS 説明会を行います。

また、児童は、年度末に ISS バトンタッチ集会を実施し、中心となって活動してきた6年生の思いを伝える集会を行い、特に5年生へ思いを引き継ぎます。新年度初めには、ISS 新年度スタート集会を開き、児童会スローガン等、1年間のめあての確認をするなど、これまでの活動の継承・伝達・発展を促します。

【問題点②】教職員の異動に伴う、これまでの活動の継承・伝達

【今後の方向性①】

◎教職員
・年度末
↓
引継ぎ資料を作成
・年度初め
↓
ISS 説明会

【今後の方向性②】

◎児童 ISS 委員会
・年度末
↓
ISS バトンタッチ集会
・年度初め
↓
ISS 新年度スタート集会